

正門から足を踏み入れると、あざやかな色彩が目飛び込んできます。二年生が心を込めて育てているパンジーは次々に新芽を出して花を咲かせ、一年生が心を込めて育てているチューリップはいつの間にかすくすくと背丈を伸ばし、可愛らしい大きな花を咲かせようとしています。春の訪れです。校庭の桜も開花寸前までつぼみを膨らませ、まさに巢立ち・花開こうとする卒業生のみなさんを思わせます。

本日は、保護者の皆様のご臨席を得て、姫島小学校第百四十七回卒業式を挙行できますこと、心からお礼を申しあげます。本来であれば、地域や来賓の方々、在校生に見守られながらの卒業式になるところ、今般の事情で、前年につづき今年もこのような形になりました。しかし、卒業式に込められるたくさんの温かい気持ち、感動は、少しも薄らぐものではありません。卒業生のみなさんには、まず、そのことをしっかりと伝えたいと思います。

さて、小学校六年間の課程を終え、本日、姫島小学校を巣立ちゆく七十七名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんは平成二十七年四月に小学校に入学しました。その頃のこと、覚えていますか。保護者の皆様に手を引かれ、新しい制服を着て初めてくぐる正門。楽しみな気持ちと同じく

らい不安や緊張もあったことだろうと思います。小さな身体。まだまだ頼りなげな表情や話し方。それから六年間、みなさんはほんとうに大きく成長しました。背丈は伸び、表情は少し大人びて、たくさんのできなかったことができるようになりました、たくさんのわからなかったことがわかるようになりました。支えられ守られるばかりだったのに、いつの間にか、人を支え守ることができるようになっています。キラキラと眩しい。青空のように美しい。成長するということは、とても素敵なことだと思います。

巣立ちゆくこの時、卒業生のみなさんには、みなさんの大きな成長を支えてくれた人たちへの感謝の気持ちを、しっかりともってほしいと思います。「ありがとう」と自分の言葉で伝えてほしいと思います。誰に「ありがとう」と伝えますか。お父さん、お母さん、兄弟、姉妹、おじいちゃん、おばあちゃん。先生、友だち、地域の方。ひよっとしたら愛犬にも。感謝すること。ことは、支えられていることを知ることです。決して一人で成長したわけではない。感謝の気持ちはとても大切な気持ちです。卒業にあたり、卒業生のみなさんに、中学校生活あるいはこれからの人生の土台となり得る、校長先生自身が「そうだよな」と自分に言い聞かせている、二つの言葉を贈りたいと思います。

一つ目は、「意志あるところに道は開ける」です。これはアメリカの有名な大統領、リンカーンの言葉です。何事もまず、成し遂げようという前向きな気持ちから始まるという意味です。当たり前のようにとても難しい。人はついつい後ろ向きの気持ち、不平や不満で心をいっぱいにしがちです。でも、それでは何も始まらない。

二つ目は、「千里の道も一歩から」です。これは昔の中国の本に出てくる言葉です。遠い目的地にたどり着くには、一步一步の歩みを確実に進めていく必要がある。大きな目標を達成するには、1つずつ具体的な行動を積み重ねていく必要があるという意味です。これも当たり前のようにとても難しい。行動し続けるのは大変なことです。

学校にとって、三月は一年の終わりで四月は一年の始まり。卒業生のみなさんにとっては、小学校生活の終わりで中学校生活の始まりです。勉強、部活動、友情、恋する気持ち、時には人への反発。さまざまなことが待ち受ける中学校生活です。ぜひ、卒業生のみなさんには、成し遂げようという前向きな気持ちと、1つずつの行動の積み重ねを土台とする生活を送ってほしいです。「意志あるところに道は開ける」「千里の道も一歩から」です。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業おめでとうございます。お子様の大きく成長された姿をご覧になり、大きな喜びと感動で胸をいっぱいにされているのではないのでしょうか。心よりお祝い申しあげます。あわせて、これまで六年間の温かいご理解とご協力に、厚くお礼を申しあげます。中学生となるお子様に戸惑いを感じる時もあるかもしれませんが、ぜひ、変わらぬ愛情とつかずはなれずほどよい距離感で、さらなるお子様の成長を見守ってあげてください。

それでは、みなさまの弥栄、ご多幸を祈念いたしまして、式辞とさせていただきます。

令和三年三月十九日

大阪市立姫島小学校 校長 吉田健太